フィールド風（現場）からの ㉗

宮田守男

積極的に学ぶ人材を、地域や職場で活かす知恵について考えてみませんか

3月上旬、信州大学経法学部会議室で開催された修士学位論文発表会に参加する。大学院は、学位論文が認められ修了する厳しい研究が求められる。皆それぞれの想いを抱きながら迎えた発表会は、研究した内容を、教員や在籍者、修了者に伝える場でもある。研究を通じて論じた内容を熱く語る姿には、いつも感動を覚える。学位は、けっして自分のものでなく、社会が認める資格。研究内容を、どうやったら役立てていけるのか。大学院の修了者は、修了がスタートだと強く思う時期でもある。

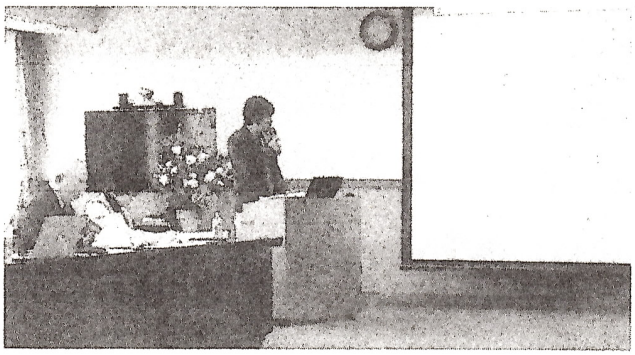
精神保健福祉士の資格を有する「伊藤かおる」さんの「再適応としての復職支援3つの空白」の発表。うつ病からの復職現場で、機能しない制度、医療で復職可能と判断された者の職場復帰の困難な現状、職場での保護的な観点から問題点を研究した。うつ病は、本人だけの問題でなく、職場全体として捉える事が必要と論じた。

望月総合経営会長でもある「望月宗敬」さんの「長野県青果市場における2強体制が示す経営戦略に関する研究」の発表。長野県に所在する地方卸売会社の長野県連合青果株式会社と株式会社長印の経営を研究。1つの都道府県において、「2強体制」を構成する戦略を多くのデータで分析した。地域限定・開設区域に捉われない積極営業展開など、明確なビジョンと強力なリーダーシップ、業界の常識を常識とせず果敢にチャレンジする人材育成の必要性は、他の産業にも必要と強く感じた。両社の経営統合は、長野県農業にも強く影響して行くのだろう。

池田町役場職員の「遠藤孝昭」さんの「地方自治体が創設する総合補助金における制度内容決定要因の考察」の発表。近年の総合補助金制度の創設の現状と課題を分析。公平性や透明性の確保が、市民団体を育成し、まちづくりにつながっていく可能性を論じた。この内容は、制度設計も新しく、まだ研究が少ない分野。他の研究論文も少ない中での研究は本人の糧になったに違いない。他の自治体の分析研究は、今後の池田町の行政現場で発揮して行くのだろう。

役場職員現職で学んだ4年間は、地域を担う人材育成としても意義のある期間でもある

……



茅野市役所職員の「鷹野鉄也」さんの「茅野市における別荘地の有効活用について」の研究。人口減少社会に茅野市で1万戸を超える別荘の活用を「生涯活躍のまち」の視点で研究。茅野市の行政現場に生かしていきたいと論じた。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）